



写真 ミチエ中嶋
区 南田登喜子

シドニー郊外の世界遺産「グレーター・ブルー・マウンテンズ地域」は、面積103万ヘクタールに及ぶ広大な森林・溪谷地帯。八つの国立公園・保護区によって構成されている。その中にあるジェノラン・ケイブス・カルスト保護区は、ひととき異色の存在感を示している。美しくも雄大な景観の地下に隠された神秘的な異空間が人々を魅了してきた。3億4000万年以上前に誕生したという世界最古の鍾乳洞は、今この時もひそやかに、太古のロマンを秘めた芸術作品を創り続けている。

スティックス川(ギリシャ神話に出てくる三途の川の名前)が流れるリバー・ケイブ。1923年までは8人乗りの小舟で渡っていた

ブルー・マウンテンズの神秘世界

ジェノラン洞窟群

Jenolan Caves

鍾乳洞リゾート

ブルー・マウンテンズ観光の拠点の町カトウエンバから、幹線道路のグレート・ウエスタン・ハイウェイを西へ30分ほど車を走らせ、ハートリーで左へ折れると、「ジェノラン洞窟群まで46キロ」と書かれた道路標識が出ていた。一面緑ののどかな牧場風景が続き、時折カンガルーの姿も見え隠れする。ブッシュ・ファイヤー（山火事）の跡が残るジェノラン州有林の脇を通り、さらに奥地へ進んでいくと、くねくねと続いていた山道が一段と狭くなった。やがて目の前に現れたのは、静かに水をたたえたブルー・レイクと「グラインド・アーチ」と呼ばれる大きなトンネル。そこをゆつくり通過すると、ビクトリア時代の雰囲気漂う「ケイブ・ハウス」が最初に目に飛び込んでくる。1898年に第一棟が完成した老舗ホテルは、もともと富裕層の旅行者のためのリゾートとして建造されたもの。古くからの行楽地らしい情緒を感じさせる歴史的建造物の佇まいに、ふと別世界に迷い込ん

だような錯覚に陥った。

人工音が届かない鍾乳洞の中に足を踏み入れると、その思いはますます深まる。かつて海底にあった石灰岩の地層。それが地殻変動によって隆起し、雨水や地下水に浸食されてできた洞窟。その中で、ひそやかに悠久の時を刻み続ける無数の鍾乳石。目の前の光景を生み出した永い年月に思いを馳せながら、ひんやりとした透明感のある空気に包まれていく。日常が静かに遠ざかっていく。天井からぶら下がったつらら石、床から伸びる石筍、その二つが繋がって柱となった石柱、カーテンが風にそよよいだかのような幕状のシヨール、ストローみたいな鍾乳管、曲がりくねったヘリクタイト、滝が凍ったように見えるフローストーン……自然の創り出した美しく変化に富んだ芸術作品は、訪れる者を幻想的な世界に誘い込む。

精霊の住まう神秘の地下世界

先住民アボリジニは、このあたりに広大な地下世界「ビノーマア」（暗い場所）が存在することを大昔

ブルー・マウンテンズの神秘世界 ジェノラン洞窟群 Jenolan Caves

から知っていた。そこに流れている地下水には偉大な治癒力があるときれ、ずいぶん遠くからも病人を運び、水浴びさせたりしたという。

鍾乳石から流れ出る石灰分がたっぷり溶け込んだ水は、確かに不思議な色をしている。ミルキーな青竹色とでも言うのだろうか。神秘的なブルーレイクを眺めていると、湖面にすつと何かが浮かんだ。カモのような大きなくちばしとカワウソのような体毛、ビーバーのような尻尾……カモノハシだ！ その昔、オーストラリアから送られてきたカモノハシの標本を英国の科学者が初めて見た時、寄せ集めの動物を縫合した偽物と思い込んだ、という話もさもありなん。その姿は何ともユニークで、これがたとえ空想の世界の出来事だと言われても、それほど驚きはしないだろう。

地元のグンデングラ族に語り継がれているドリーミング（創世記の神話的物語）によると、このあたりの複雑な地形は、半分魚で半分爬虫類の肉体を持つ精霊グランガッチが、オオフクロネコのミラガンに執拗に追跡され、捕らわれそうになった時



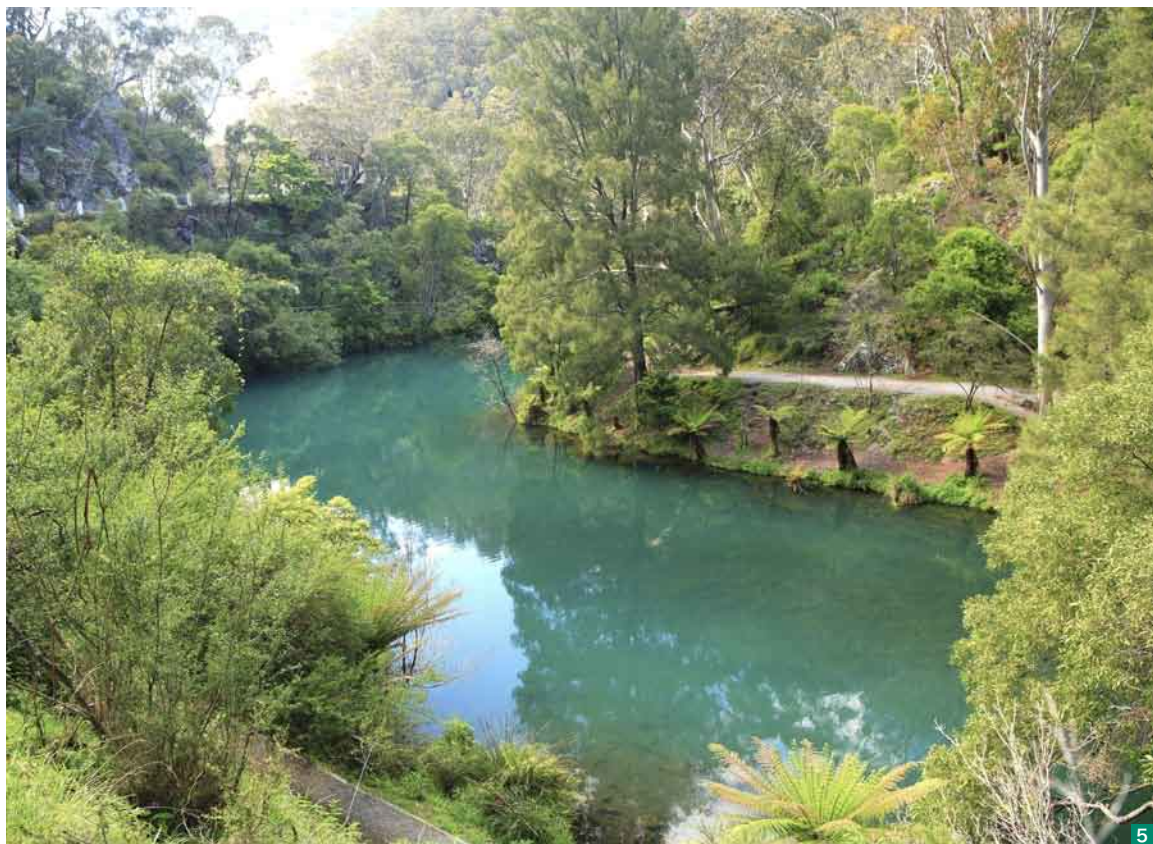
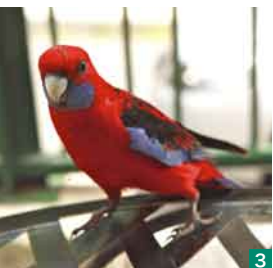
に、大地を引き裂き、地下にトンネルを掘り、水路を変えながら逃げる中で造られたものだ。激しい戦いに疲れきってジェノラン洞窟群に逃げ込んだグランガッチは、そこに住む親族に助けられて安全に脱出し、深い泉に潜伏していたが、ミラガンに助太刀を頼まれた水鳥に見つかって肉をひきちぎられたため、ギザギザの傷跡が背中に残ったと伝えられている。

「発見」から始まる観光化

白人によるジェノラン洞窟群の「発見」はずつと後の話だ。元囚人で逃亡中のブッシュレンジャー（山賊）のジェームス・マキュアンが1838年頃に隠れ場所として使ったのが最初、というのが通説だが、無法者を第一発見者とは言えなかった

右頁「カンガルー・ウォンバットに注意」の道路標識

- 1 ヘリテージ(遺産)リストに指定されたケイブ・ハウス。人里離れた場所にある鍾乳洞を訪れる行楽客のために建てられた
- 2 「Jenolan (ジェノラン)」は先住民の言葉で「高い山」を意味する
- 3 まるで花が咲いたように華やかな野生の赤い鳥
- 4 オーストラリアを唯一の生息地とする卵生の哺乳類カモノハシ。水中では目を閉じて泳ぐ
- 5 空や木々を湖面に映すブルー・レイク。癒しの力があるとされる鍾乳洞の地下川が流れ込んでいる





5

ブルー・マウンテンズの神秘世界 ジェノラン洞窟群 Jenolan Caves



- 1 「エジプトの列柱」と「氷結したナイル川」(オリエント・ケイブ)
- 2 太古の生物ストロマトライト(ネトゥル・ケイブ)
- 3 「インドのキャノピー」(オリエント・ケイブ)
- 4 「折れた石柱」(ルーカス・ケイブ)
- 5 「化石の森」(オリエント・ケイブ)
- 6 繊細なヘリクタイト = 曲り石(リボン・ケイブ)
- 7 現生のストロマトライトは世界でも希少(ネトゥル・ケイブ)
- 8 こうもりの化石(リボン・ケイブ)
- 9 棘皮動物ウミユリの化石(オリエント・ケイブ)

のだろう。彼を捕らえるために追ってきたジェームス・ウアランが公式な発見者ということになっている。この時の捕り物劇については、何十年もたつてから、おまけにウアラン本人ではなく孫によって語られたため、マキュアンが実在の人物だったかどうかについては謎に包まれている。

1866年、付近一帯は自然保護区に指定された。アメリカに「最初の国立公園」が誕生する7年前のことで、環境保全区域を設定して、かけがえない自然を守り伝えていこうという取り組みは、世界的にも黎明期にあり、画期的なことだったに違いない。翌年、初代キーパー(管理人)としてジェレミア・ウイルソンが任命され、それから間もなく大分水嶺山脈の一部を成すブルー・マウンテンズを越える鉄道が開通した。1872年にシドニーの西約200キロのところにあるタラナまで路線が伸びると、ウイルソンはタラナ駅で訪問者を出迎えて馬車で運んだが、最後は誰もが歩いて急斜面を下りなければ、玄関口のグランド・アーチまでたどりつくこと



4

1

2

3





右頁「クレオパトラのカーテン」(オリエント・ケープ)は、高さ約10メートル。照明はLEDを使っている

- 1 一般に公開されている鍾乳洞は全体のほんの一部。それでも全部見ようと思えば何日もかかる
- 2 鍾乳洞の位置関係を説明した1897年の手紙。差出人は2代目キーパーを務めたフレドリック・ウィルソン
- 3 ガイドオフィスに保管されていた懐中時計には、裏面にワイバードの名前と「1888年」の刻印が入っていた
- 4 晩年のジェームス・ヴォス・ワイバード。臨時ガイドとして働き始めたのは10代のころだった

「今日わたしは職を辞すことにした。個人的な資料やメモは持っていくのであしからず。それから、わたしはシドニー湾を航行しているサウス・ステイン号が葉々とUターンできるくらい大きな地底湖を含む鍾乳洞を最近発見した。皆もその洞窟を見つけて出せることを祈っているよ」。

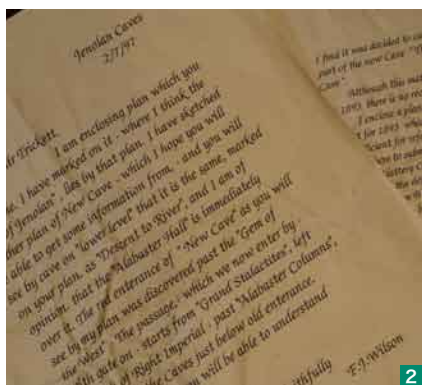
現役ガイドの中で一番歴史に詳しくいとされるデイビッド・ヘイさんに、その真偽を確かめてみると、「とてもよかったです話だ」と笑いながらワイバードが規定通り65歳の誕生日に退職した記録がある、と教えてくれた。ただし、リボン・ケイブの公開を巡って上層部と一悶着あったことや、巨大地底湖のある鍾乳洞の発見をほめかしながら場所を明らかにすることなく、資料やメモを持ち去ってしまったのは本当らしい。聡明で繊細、ちよつぱり風変わりという人物評で語られ、「愛情深い洞窟の守護者」という異名を持つ環境保護主義者のワイバード。その人となりを感じさせる空想と真実の入り混

ブルー・マウンテンズの神秘世界 ジェノラン洞窟群 Jenolan Caves

これまで発見された洞窟の数はおよそ360。75年以上前にワイバードが見つけたらしい鍾乳洞は、未だ確認されていない。地下世界の探検は現在も続けられているが、全貌が明らかになるのは、おそらくずっと先の話だろう。

それでも、時には世間をあつと言わせる大発見もある。体長3メートル、体重3トンほどであったと推測される巨大ウオンバット「ディプロトドン」の骨が見つかったのは、2007年のことだった。30センチを超える大きなあの化石骨は2万4000年前のものと発表され、古生物学者の間に物議を醸した。それまで、大型有袋類は4万5000年以上前に絶滅したというのが定説だったからだ。

初めて地球上に酸素を作り出したという「ストロマトライト」も、この地にひっそりと生息している。推定年齢は2万〜10万歳。現生のスト



はできず、夜はキャンプするほかなかった。

近郊の町オベロンから通じる道が開通したおかげで、五つの寝室を備えた待望のゲストハウスが完成したのは1880年のこと。次にウィルソンが着手したのは、女性のための水浴場を近くの小川に造ることだった。アボリジニの伝説を知ってか知らずか、シドニーのトップクラスの医者が石灰分を含む水の効用を説いたからだという。冒険心と好奇心に

かられてやつてきたのは、男たちだけではなかったということなのだろ。女であるが故に名を残すことはできなかったが、ルーカス・ケイブの発見者が実は女性だったことはよく知られた事実である。

1880年代は、ジェノラン洞窟群が観光洞として大きく発展を遂げた時代だ。鍾乳洞内に世界初の照明システムが導入され、やがてオーストラリア初の水力発電も稼働して、恒常的に電気が使えるようになった。



ロープのはしごが階段に代わり、手すりも付けられ、橋がかけられるなど、通路の整備も進んだ。現在も主要ルートとして利用されているジェノラン・ケイブス・ロードが、グラインド・アーチまで数百メートルのところまで開通すると、シドニーからのアクセスは24時間を切るようになった。当時のガイドブックには、「午後5時までにシドニーを電車で出発し、マウント・ビクトリアに宿泊。翌朝9時に出発し、途中昼食を

取って、午後洞窟へ到着」というモデルプランが載っていた。

ある探検家と秘密の洞窟

ウィルソンをはじめとする歴代のキーパーは、管理人兼観光ガイドであっただけでなく、優れた探検家でもあった。たとえば、1885年に臨時ガイドとして採用されたジェームス・ヴォス・ワイバードは、1903年にチーフガイドに就任して3代目のキーパーを務め、リバー・ケイブ、プール・オブ・ケルベロス、テンプル・オブ・バアル、オリエント・ケイブ、リボン・ケイブといった現在も一般公開されている主要な鍾乳洞をいくつも発見した伝説的人物だ。押し寄せる観光開発の波に抗い、自然の美しさを保つために奮闘した彼が50年近く勤めたジェノラン洞窟群を去つたのは、自身が発見したりリボン・ケイブの一般公開スタートを記念するパーティーの日だったという風説がある。現場最高責任者であったにもかかわらず、「公開するにはあまりにも繊細すぎる」と反対を続けたワイバードの元に招待状



2 1

用の「ショー・ケイブ」は全部で11コースあり、長さはいずれも約400メートルから1600メートルほど。基本的にガイドが同行して、照明や音楽を巧みに操りながら案内するツアー方式になっており、それぞれ1〜2時間ほどで大自然の神秘を垣間見ることができ。ワイバーンが守ろうとしたリボン・ケイブは、毎週土曜日の朝に1回だけ、最大8人までという条件でツアーが催行されているから、年間400人ちょっとの枠。一方、内部が一番広いルーカス・ケイブは、1日少なくとも2回、多いときには10回以上のツアーがあり、一度に最大75人が入洞することができ。探検家気分を味わえる「アドベンチャー・ケイブ」は、参加者全員がつなぎを着用し、ヘルメットをかぶり、ヘッドランプを装着する本格的なもの。ロー



4

プを使って岩壁を下りたり、這いつくばり、滑り降り、体をよじつて隙間をすり抜け、時にはほふく前進で、時には足で探りながら闇に向かって進んでいくと、五感がどんどん研ぎ澄まされていくのが分かる。終着点にたどり着いた時の連帯感や達成感も格別で、学校の遠足や会社のチームビルディング研修の一環として人気が高い、というのもうなずける。シドニーのノーマンハースト高校は、ジェノラン洞窟群への宿泊校外学習を50年以上も続けているのだそうだ。もつともシドニーやキャンベラあたりのオーストラリア人と話すと、ほとんどの人がジェノラン洞窟群の思い出話を聞くことができる。遠足や家族旅行のほか、デートだったり、結婚式だったり。1940〜50年代にはハネムーンのメッカだったと教えてくれた人もいた。まるで、そこがワンダーランドへの入り口であるかのように、「あの曲がrikくねったワインディング・ロードは今もある？」と誰もが尋ねる。外界から隔絶されたような異空間で体験した不思議な非日常感をみんな覚えているんだな、と思う。

ブルー・マウンテンズの神秘世界 ジェノラン洞窟群 Jenolan Caves

- 1 パノラマビューが楽しめるウォーキング・トレイル「カルロッタ・アーチ・コース」
- 2 セルフガイド方式のネットゥル・ケイブへは「悪魔の馬車置き場」からアクセスする
- 3 「グランド・アーチ」の中が、ショー・ケイブの出発地点の一つになっている
- 4 鍾乳洞コンサートも定期的に催されている。天井まで50メートル以上ある自然のホールが会場
- 5 「アドベンチャー・ケイブ」が一番短いコースで2時間。万全の装備のガイドが二人同行する



5

■ジェノラン洞窟群への行き方

公共交通機関がないため、シドニー（またはカトゥーンバ）発のツアーを利用するのが一般的。車の場合は、シドニー市内からパラマツタ・ロードを經由してモーターウェイ(M4)に入り、ブルー・マウンテンズへ。グレート・ウエスタン・ハイウェイのピクトリア・パスを越え、ハートリーを左折した後はほぼ一本道だが、最後のセクションは、毎日午前11時45分から午後1時15分までジェノラン洞窟群方面への一方通行となっている。所要時間約3時間。

■ショー・ケイブ

一般見学用の「ショー・ケイブ」は、1年365日オープン。入洞券は、ワンダーズ・オブ・ジェノラン(A\$28)、ジュエルズ・オブ・ジェノラン(A\$35)、マジック・オブ・ジェノラン(A\$40)の3種類あり、各数種類の鍾乳洞コースの中からガイドツアーをひとつ選択する。個人用音声ガイドを使ったセルフガイド方式のネットゥル・ケイブにも同じ入洞券でアクセス可。

URL: <http://www.jenolancaves.org.au>

ロマトライトは世界に数カ所しか見つからないというが、太古の生物の営みにこれほどびつたりくる土地もほかにそうないだろう。このあたりにはびつくりするようなことがまだまだたくさん隠されているに違いない。

考えてみれば、ジェノラン洞窟群が世界最古の鍾乳洞であると分かっているからさえ、まだ5年もたっていない。それまで最古と言われていたアメリカのカールスバッド洞窟群よりずっと古いはず、とらんでいた地質学者は以前からいたらしいが、どうにも証明する手立てがなかった。ところが、2006年にCSIRO（オーストラリア連邦科学産業研究機構）が石油資源探査のために開発した最新技術を応用して、シドニー大学及びオーストラリア博物館の専門家と共同で年代測定を行ったところ、予測をはるかに上回る3億4000万年以上前のものであることが判明したのだ。「古生代後半の石炭紀」「恐竜が誕生する1億年以上前」などと説明されても、それがいつたどのくらい古いか、素人には想像すらできない。

地元でお馴染み「洞窟探検」

複数の階層から成る巨大な洞窟がいくつもあるジェノラン洞窟群には40キロ超の通路があり、現在はその一部が「ショー・ケイブ」あるいは「アドベンチャー・ケイブ」として、一般公開されている。見学



3